

令和4年度 第2回学校運営協議会議事録

- 1 開催日時 令和4年10月3日(月) 14:40~16:40
- 2 開催場所 岩手県立大東高等学校 会議室
- 3 参加者 校外委員8名 校内委員5名 校内事務責任者1名
- 4 次第 資料表紙の通り
- 5 校長挨拶
 - ・半年なんとかやってくれた。保護者、卒業生、地域の方々の本校に対する期待をひしひしと感じている。
 - ・文化祭も公開でやりたかったが、新型コロナウイルス感染症の拡大時であったため、非公開とした。今後は情報ビジネス科を中心に外部での活動も増える。
- 6 令和4年度前期活動報告(説明は資料のとおり) ※質問なし
- 7 協議(説明は資料のとおり) 進行:委員長
 - (1) 本校の志願者確保に向けた取り組みについて
 - ① 今年度の学校の取組み
 - (質問) 以前に話題になった、フェイスブックやインスタなどのSNSの活用で学校の紹介をする予定はあるか。
 - (回答) 1週間限定で試行する予定がある。(情報ビジネス科チャレンジショップ)
 - (質問) ここまでの取組みの中で手応えのあったものはなんであったか。
 - (回答) 逆に、手応えのなかったものは、学校HP及びnote。担当者がほぼ毎日更新しているが、1日体験入学で中学生に「学校HPみていますか?」と聞いたところ、ほぼ手が挙がらなかった。見てくれば、本校の事が色々分かるので、更に周知を図りたい。
 - ② 第1回運営協議会で提案されたもの
 - ア 卒業生の活躍を中学生に紹介
 - (意見)
 - ・学校HPやnoteに掲載してみてもどうか。生徒のキャリア教育、探究授業の取組みの一つとして、本校の卒業生にインタビューを試み(個人でも班ごとでも)、その内容をHPに掲載する。インタビュー対象は、将来の自分とつなげて考え、決定する(前回提示された「様々な職業人と生徒の交流機会の創出」に関連して考えることができる内容)。
 - ・各年代に、各界で活躍する卒業生はいる。自分の同級生もANAのステューワーデを務め、後に国際線の乗務員となった。
 - ・学校にきてもらい、1~2時間ほどの講座の後、インタビューなども可能。
 - ・オンラインでのインタビューも可能だし、そうすれば海外の人物にもインタビューができる。
 - イ 「だいとうメール」を活用しての生徒からの情報発信
 - (意見)
 - ・だいとうメールの活用はすでにしていただいている。たまに生徒が考えた文面で情報発信の機会があるとよい。
 - ウ 部活動大会出場機会の確保

(学校側補足説明)

- ・休部、廃部の基準の見直し。他校との合同チームによる大会参加の模索。生徒の所属部以外の競技への参加の弾力化等を行っている。

※質問、意見等はなし。

- エ 旧西磐井地区、旧一関市地区へのアピールを強める。鹿踊部の演舞を旧一関市地区で発表するなど。

(意見)

- ・アで検討されたことをしっかり取り組んで情報発信をすれば、充分アピールになる。生徒が社会人から実体験を聞く機会などをもってもらえたらよいと思う。
- ・大東高校は安心して勉強や部活動に取り組める環境である。一関市の西側の地区にもそのような環境で高校生活を送ってほしいと考えている保護者もいるはず。少人数ならではの、教員が生徒一人一人に「手をかけ、目をかけ」が実践されており、それが保護者の願いでもある。進学だけでなく生徒支援をしている学校であるというところを情報発信していけばよい。

(意見)

- ・先日、「きたかみ・かねがさきメッセ 2022」に参加したが、多くの企業展示の中で、県内各工業高校を中心に、高校生も展示する側で参加していた。見せる側で参加できれば、企業の「大人たち」との交流も増え、お互いに刺激になる。一関も企業情報交換会等を行っているが、高校生が運営に参加するような企画も考えていきたい。
- ・摺沢駅外壁に大東高校及び大東地域小中学校の児童生徒顕彰用掲示板を設置することになった。広く大東地域の方に、児童生徒の活躍を紹介したい。

- オ WEB ページやパンフレットの工夫

(意見)

- ・学校紹介パンフレットについては担当の先生からご相談いただいたが、今年度のものにするのが難しかった。
- ・前任校でPTA 会長が町の広報担当の方で、PTA 会報の全面改訂を行い、東北ブロックでも入賞するような出来栄えになったが、予算はオーバーした・・・。
- ・パンフレットや WEB ページの質をあげようとするより費用がかかる。財源確保の方法として、クラウドファンディングの活用もある。学校として行うことは難しいので、PTA や同窓会の協力を得ながら行うとよいのかもしれない。

- カ 様々な職業人と生徒の交流機会の創出

(意見)

- ・大体アのところで話した通り。別の高校で「面白い大人にインタビュー」という企画に携わった。なかなか良かった。

- キ その他

(意見)

- ・応援歌練習について、入学してすぐの時期で「怖い」という声がある。応援歌練習の在り方の見直し、伝統の捉え直しが始まっている。大東高校でも検討をしていいのではないか。

- (2) 地域や関係機関との連携（「社会に開かれた教育課程」の実践）について

(質問)

- ・一関市役所大東支所による出前講座は実施するのか。

(回答)

- ・1月くらいに実施予定

(3) 中間反省会議を踏まえて

中間反省会議資料から抜粋・提示

(意見)

- ・教務課反省の「授業については92%が理解できると回答」のところ、高い数値だな、と感心した。

(質問)

- ・一日体験入学について、100名の来校、との事だがこれだと実際の志願者はどのくらいになるのか。

(回答)

- ・昨年度は今年度より参加者が少なくて、入学者が60名ほどなので、志願者がどれくらいになるかは見通せない・
- ・中学校によって「気になる学校は見に行こう」という指導もあると思うので、参加者全員が本校を第一志望としているとは限らず、志願者数はつかめない。

(回答を受けて) まあ、大体7割くらい、というところか。

(意見)

- ・進路指導、保健厚生に関連して、進学で費用で困りごとがあったら、社会福祉協議会に相談してほしい。資金の貸付制度もある。

8 その他

- ・次回開催は2月後半

9 所感

終始和やかな雰囲気では会議が進み、委員の皆様の大東高校への熱い思いも感じられた。会議の始まる前には、3人の方に授業参観をしていただいた、授業でのICT活用の様子など、本校の学習活動の一端に触れていただいたのはよかった。次回も同様の機会を設けたい。